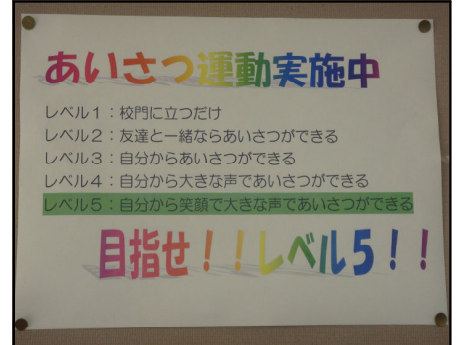




浦島伝説

「レベル5」のあいさつ

今週から始まったあいさつ運動の様子です。下の【写真左】は初日の様子、【写真中央】は2日目の様子です。その違いがわかりますか？写真だけを見ると、「人数が増えている」ことに気づくと思いますが、それよりもっと大きな変化がありました。それは「声が大きくなっている」ことです（写真からはわかりませんが…）。各階の掲示板には右のようなポスターが貼られており、「レベル5：自分から笑顔で大きな声であいさつができる」の部分が強調されています。また、給食時には、毎日生徒会役員が呼びかけをしています。“レベル5”のあいさつをする人がどんどん増えていっていることをうれしく思います。



真の力

2020年東京五輪・パラリンピック招致を呼び込んだ立役者の一人、佐藤真海さん（パラリンピック走り幅跳び代表）のスピーチが話題になっています。自分の辛い体験をさわやかな笑顔で語る彼女の姿に多くの人々が感動したことでしょう。「新たな夢と笑顔を育む力」「希望をもたらす力」「人々を結びつける力」、それは、「スポーツ」だけが持っている力ではありません。私たちの身近なところでも、それを発揮する場面はたくさんあり、だれもが持っている力だと思います。

私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくださいました。それは、2020年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。

19歳の時に私の人生は一変しました。私は陸上選手で、水泳もしていました。また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてからたった数週間のうちに、骨肉種により足を失ってしまいました。もちろん、それは過酷なことで、絶望の淵に沈みました。でもそれは大学に戻り、陸上に取り組みまでのことでした。私は目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして何より、私にとって大切なのは、私が持っているものであって、私が失ったものではないということ学びました。私はアテネと北京のパラリンピック大会に出場しました。スポーツの力に感動させられた私は、恵まれていると感じました。

2012年ロンドン大会も楽しみにしていました。しかし、2011年3月11日、津波が私の故郷の町を襲いました。6日もの間、私は自分の家族がまだ無事かどうかわかりませんでした。そして家族を見つけ出したとき、自分の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにもなりません。

私はいろいろな学校からメッセージを集めて故郷に持ち帰り、私自身の経験を人々に話しました。食糧も持って行きました。ほかのアスリートたちも同じことをしました。私達はいっしょになってスポーツ活動を準備して、自信を取り戻すお手伝いをしました。そのとき初めて、私はスポーツの真の力を目の当たりにしたのです。新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人々を結びつける力。200人を越えるアスリートたちが、日本そして世界から、被災地におよそ1,000回も足を運びながら50,000人以上の子どもたちをインスパイアしています。私達が目にしたものは、かつて日本ではみられなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。そして、日本が目ん当たりにしたのは、これらの貴重な価値、卓越、友情、尊敬が、言葉以上の大きな力をもつということです。

※佐藤真海さんのスピーチから一部抜粋